

平成20年度 千田小学校研究推進

豊かな感性を持ち、主体的に活動する子どもの育成

～ かかわりを大切にし、考える力を引き出す授業作り～

1. 研究主題設定の理由

(1) なぜ、「かかわりを大切にし、考える授業作り」なのか

少子化、高齢化の台頭をはじめ、社会状況の急激な変化は、私達の生活に様々な影響を与えている。とりわけ、教育の中では、人と人、人と自然とのかかわりが希薄化し、体験や人とのふれあいの中から生まれる感動や喜びを知らない子ども達が増えつつある。自然に触れたり、多様な社会経験をしたりする機会が少なければ、考えも深まらず、人のよさや感じたことから生まれる、相手を尊重する態度や思いやりの気持ちも育ちにくい。

こうした状況をふまえ、本校では、過去5年間、「かかわりを大切にし、考える力を引き出す授業づくり」をおこなってきた。学習問題を追究していく中で、見つけたことや疑問、思ったことや考えたことなどを友達と深く意見交流できれば、今まで気付かなかった友達の良さにも気づき、互いに認め合い、よりよい関係が紡がれると考えたからである。

なお、昨年度までの取り組みの間子ども達の成長をまとめてみると、次のような成果を確認することができた。

- ・発達段階にあわせて問題意識を明確にし、見通しを持って学習する態度が育ってきている。
- ・集めた情報をうまく活用し、自分の考えをまとめることができるようになってきている。
- ・既有的知識や経験を関連づけて問題を解決していこうとする態度が育ってきていた。
- ・学んだことを自分の言葉でまとめたり、発信したりすることができる児童が増えた。

このように、身の回りの事象に豊かに感応し、問題をみつけ、個々の個性を生かしながら、友達とのかかわりを大切にし、その解決に取り組み、自分の価値観を作っていく児童の姿を見ることができた。

こうした成果は、それぞれの研究教科における学習材の開発はもちろん、子どもたちの思考を丁寧に見取っていく評価活動とそれを生かすための学習指導案の作成、児童の実態を見据えた学習活動の工夫、パフォーマンス事例の構想などの様々な取り組みと共に、段階指標に基づいた「聞く・話す」ことへの意識付けや前期に確認した日々の取り組み、また、朝の学習や千田タイムによる基礎・基本の定着などの取り組みについて職員全体で共通理解を図り、真摯に取り組んできた結果である。

しかしながら、問題発見力や探究力、問題解決力、表現力といった考える力の高まりには大きな個人差が認められ、上記の学力の定着状況についても、全ての子どもが一様に力を付けているとは言えない状況にあることも昨年度の実践のまとめから読み取ることができた。そのため、今後も、昨年度の研究のまとめに示された様々な手立てをもとに「考える力の育成」をキーワードに授業づくりを進めていき、研究主題に迫っていくことが大切になってくるのである。

(2) 研究主題と言語・数理運用科のかかわり

また、本校は、平成22年度に完全実施となるひろしま型カリキュラムにおける「言語・数理運用科」の研究開発校となっている。言語・数理運用科では、身の回りの事象や社会事象・自然事象を題材にした連続型テキストや非連続型テキストによる資料を通して、問題を発見し、その背景に

ついて考え、表現する力の育成を目指したものである。それは、本校における育てたい力と相通じるものであり、それはまた、問題解決的な学習を大切にする社会科の授業構成と共通している。

そのため、今年度の研究教科は、低学年 - 生活科、中学年 - 社会科、高学年 - 新教科を位置付け、それぞれの教科で「考える力」の育成を核とした授業づくりを大切にしていきたい。なお、「言語・数理運用科」においては、年間の学習指導計画をはじめ学習目標及び内容、取り上げる題材、資料及び教材などは、市教育委員会が中心となって作成しているため、本校では、それに基づいて授業を実施し、検証していくことになる。また、今年度は、全員が言語数理運用科の授業を実際に行うことで、さらに研究を深めていくことができると考えている。

（３）研究主題と基礎的・基本的な知識や技能の向上

ただし、言語・数理運用能力は、国語科の目標に掲げられている「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める」ことや「思考力や想像力を養う」と深く関わっており、また、算数科の目標に掲げられている「日常の事象について見通しを持ち筋道を立てて考える能力を育てる」ことや「数理的な処理のよさに気づき進んで生活に生かそうとする態度を育てる」と結びつく能力である。そのため、言語や数理による思考力・判断力・表現力の育成に向けては、それらを総合的に活用できるように、これまでの国語教育、算数教育をさらに一歩進める形で基礎的・基本的な知識や技能の向上を図っていく必要がある。本校では、昨年度までに新教科導入に伴い言語・数理能力のさらなる向上を図っていくために、従来の朝学習と計算タイムの指導内容を見直し、時間的な余裕が持てるような教育課程を編成について検討し、基礎的・基本的な力の定着を進めてきた。しかし、算数科の帯タイムにおいては、「数理的な処理」の育成を目指したドリル的な計算練習に終始する傾向があり、１年間を見通した指導計画はできなかった。また、国語の朝学習についても、指導内容は各担任に任されているため、学校全体としての系統性が図られていない。特に高学年「言語・数理運用科」においては、国語科で培っていく「聞く」「話す」「書く」「読む」力、算数科における「数理的な処理」「筋道を立てて考える」力を土台としている。今後は、学びの基礎・基本の時期として位置づく１年生から４年生までの朝学習と帯タイムの内容を見直し、学年間で統一しておこなうなど、全体としての系統性をもたせていく必要がある。

（４）英語科の導入について

平成２２年度からはじまる英語科の学習は、表現力、コミュニケーション能力の向上をねらいとしており、それは、考える力を引き出す授業作りを進めていく上での必要となる表現力の育成と深く結びつくものである。しかし、本校の英語科の研究は、昨年度、教師の語学力の向上を目指した研修会がようやく始まったばかりである。今後、導入される週３回の英語タイムや１単位時間の学習をどのように進めていけばよいのか、その内容や活動計画についての研修はこれからである。ただし、本校では、午後の帯タイムを設定しているため、週時程上は、英語科の学習を昼の帯タイムに導入していくことは可能である。そのため、今年度は、英語科の学習の内容や指導計画を検討するとともに、実践可能な時間を段階的に増やしていくことが求められる。

以上のことから考えると、今後、本校の研究推進は、「かわりを大切にし、考える力を引き出す授業作り」を各学年それぞれの研究教科で進めていくと共に言語数理運用科の研究、帯タイムの充実、英語活動の導入など多岐にわたり、それらを同時に進めていく必要があることがわかる。なお、こうした課題は、当然、個人のパフォーマンスで乗り越えられるものではない。職員一人一人の力を結集し、協働的に研究が進むよう配慮していくことが大切である。そこで、本年度は、全職員で、上記課題にかかわれるように、従来の研究組織を見直し、新しい体制で研究を進めていく。そうすることで、平成２２年度から本格実施される「ひろしま型カリキュラム」もスムーズに導入できるものと考えている。

2. 育てたい力

主体的に活動するには、豊かに感じる感性と、感じたことから問いを見つけ（問題発見力）、自ら追究し（探究力）、よりよく解決しようとする力（問題解決力）が必要である。その際、学習する事柄に対して自分なりに考えをもち（もの与人）、その上で、異なる意見、アドバイスに触れたり（人と人）、自分自身の考えを見直したり（自分と自分）すれば考えや課題も明らかになり、問題解決もより深まるであろう。そこで本校では豊かな感性を持ち、主体的に活動する子どもを育成するため以下の力に着目したのである。

- (1) 問題を発見し、思考、判断する力（問題解決力）
- (2) かかわりを大切にし、ともに高まる力（かかわる力）
- (3) 学習を振り返り、自らの考えや課題を明らかにしていく力（自己評価力）

(1) 問題を発見し、思考、判断する力（問題解決力）

問題となる事象が、どのようなプロセスで生じてきたのか説明したり、さらにどうすればよいのかという実践的な問いを考察したりすることで、考え、判断する力も高められる。その際、子ども自ら学習活動をつくること（問題を発見する 問題意識を焦点化する 問題解決のための学習計画を立てる）で、主体的に学ぶ意欲や態度、問題解決に必要な能力や技能（プロセススキル）を身につけることができる。



(2) かかわりを大切にし、ともに高まる力（かかわる力）

自ら問題を発見し、思考・判断していく力は、単に個人という閉じた世界の中で考えたり、判断したりすることだけでは育っていかない。子ども達は、学習する内容に対して自分なりに考えをもち（もの与人とのかかわり）、その上で自分とは異なる考えに触れたり（人と人とのかかわり）、自分自身の考えを見直したり（自分と自分とのかかわり）することで深まるのである。

(3) 学習を振り返り、自らの考えや課題を明らかにしていく力（自己評価力）

子ども達が学習内容に働きかけ（もの与人とのかかわり）、お互いにかかわっていくためには（人と人とのかかわり）、一人一人が学習を振り返り、自らの考えを明らかにしておくこと（自分と自分とのかかわり）が大切になってくる。例えば、解決の見通しや調べ問題の妥当性、問題に対して何が解決できて、何が未解決なのかなど、学習の成果（到達点）や課題を明確にすれば、考えもより確かになり、主体的に活動することができる。

3. 研究の視点

社会科・生活科・言語・数理運用科における「かかわり合う力」が獲得されるためには、小集団や学級集団で考えを練り合い・高め合いながら問題解決できる学習材、学習過程、学習活動、学習評価の工夫が求められる。そのため、本校では、過去5年間、子ども達の思考を見取る評価活動を軸とし、これらの視点から研究を進めてきた。しかし、先に述べたように、全ての子どもが一様に力を付けているとは言えない。そのため本年度も「かかわり」という視点から実践を積みあげていくこととする。

出会いと発見のある学習材の開発

子ども自ら問題を発見し、思考、判断していくためには、何よりも出会いと発見のある学習材が求められる。具体的には子どもの生活経験と深い関連があるもの。将来、子ども達が直面することが予測される問題や課題。地域の実態や特色を生かしたものなどである。なお、本校では、学年ごとに以下の学習材を開発してきた。

生活科	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・あそびばへいこう ・だいすきだよ
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしの町のしょうてんがい ～とびだせ千田たんけんたい～ ・気持ちをつたえよう ～ゆうびんのひみつ～
社会科	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市中心部から郊外の様子を探検しよう～本通り 観音ネギ～ ・お好みソース工場の仕事
	4年	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市のごみのしまつ ・くらしのうつりかわり ～路面電車と共に歩む～ ・広島県のいろいろな地域 ～大崎下島のみかん～
	5年	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの食料生産 ～広島野菜作り農家から考える～ ・わたしたちのくらしと工業 ～自動車を作る工業～ ・広島針 ～専門技術で活躍する中小工場～
	6年	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の武将 毛利輝元 ・広島復興 ・世界の中の日本 ～海外に渡った広島の人々～ ・わたしたちのくらしと政治 ～どうする広島市民球場～
言語・数理運用科	5年	<ul style="list-style-type: none"> ・マイカー乗るまあデー ・広島路面電車 ・水の都ひろしま
	6年	<ul style="list-style-type: none"> ・広島お好み焼き物語 ・スポーツ王国広島

単元全体を見通した学習過程の工夫

子ども達一人一人が主体的に学習を進めていくためには、子ども自身が単元全体を見通することができる「問題」と出会い、その問いを考えるために調べ、考えていくことのできる学習過程を組織することが大切である。そうすることで「問題に対して何が解決できて、何が未解決なのか」、「友達と自分の考えの共通点や相違点は何か」など、自らの考えや課題を明らかにしながら学習を進めることができる。また、考えを出し合う授業場面では、これまでの学習をもとに根拠をあげて予想したり、友達と自分の考えの共通点や相違点を比較したりすることも可能になる。

かかわりを大切にした学習活動の工夫

思考力や判断力は、単に個人という閉じた世界の中で考えたり、判断したりすることだけでは育っていかない。子ども達が学習する内容に対して自分なりに考えをもち（ものと人とのかかわり）、その上で、自分とは異なる考えに触れたり（人と人とのかかわり）、自分自身の考えを見直したり

(自分と自分とのかかわり) する中で深まるのである。

【学習活動の例】

体験・追体験活動

学校の内外を問わず、「つくる」「育てる」といった実際の、探索的な活動。

調査活動

地域の社会的な事象や事実を実際に見たり、聞いたりする学習探究活動

問題となる社会的な事象を「なぜ」と問い、その理由について相互に考えを出し合い、解決しようとする学習活動

意思決定活動

「なにをなすべきか」「何がなされねばならないか」「どの解決策がより望ましいか」など複数の解決策の中から相互に考えを出し合い、より望ましいと判断できるものを選択、決定する学習活動。

表現活動

子ども達が追究したことを、自分なりに整理し、学習の過程や成果を表現する活動

社会参加活動

公園や道路、川原など地域の環境美化活動や古新聞の回収活動など、現実の社会に対して働きかける活動。

ただし、こうした「場」を生かすためには、教師が子ども一人一人の思考を適切に見取り、疑問を焦点化したり、視点拡大の契機となる資料を提示したりするなどして、子ども達の思考が深まるように後押ししなければならない。



一人ひとりのよさを生かす評価活動の工夫

本校では子ども一人一人の学習活動に光を当て、評価活動を充実させることを通して育てていきたい学力の育成を目指してきた。その際、評価の目的は、子どもの値踏みではなく、教育活動の確認と調整であり、自己教育力の育成であること。また、そこでの評価は、学習の結果として進歩の状況を捉え、後の学習や次の単元の指導に生かした評価であること。さらには、個性を生かす教育を実現するという観点から一人一人の良さを認め、それを伸ばす評価観・指導観が大切であるなどといったことに対する共通理解を図ってきた。こうしたことから学習の中で、個人内評価や学習の過程での評価、自己評価や相互評価を重視し、観察やノート、作品、発表などといった評価方法の多様化を図ることで実践的研究を進めていくことになったのである。昨年までの実践の中で大切にしてきた評価活動は以下の通りである。

児童の思考が見える指導計画、本時案の作成

「教師の見取り」と「子どもの振り返り」の観点の明確化

段階指標（ループリック）とパフォーマンス事例の活用

ワークシートやポートフォリオの活用

学習価値を認める評価活動

今年度も、以上4つの視点で研究を進めていくが、研究実践は過去の遺産を踏襲するだけでなく、これまでの成果をさらに深化、発展させていく方向で進めていきたい。例えば、学習材は同じでも、子ども同士のかかわりを深められる新しい問いを工夫できないか。また、学習活動はこれまでと違った内容を取り入れられないか。さらには、自己評価を活性化させることで子ども同士のかかわりは深まらないのかなどである。こうした、新しい角度から研究を進めていくことで実践の質も向上すると考えている。

4. 研究実践の内容と方法

(1) 学年の研究教科と日課

研究する教科は、1・2年は生活科、3・4年は社会科、5・6年は新教科とする。

研究日は木曜の午後とする。(授業カットしなくてよいので)

講師の都合等で授業日が木曜日以外の日となった場合木曜日の日を掃除なしの5校時授業を組み授業時数の確保に努める。

- ・ 給食終了時までは木曜日通り
- ・ 13:10～13:30(給食食器等返却、休憩)
- ・ 13:30～14:15(5校時)
- ・ 14:15～14:25(帰りの連絡・下校)

(2) 授業研究

・各学年で年1度全体研修において授業提案し、研究協議会を持つ。

・全体研修で授業提案しなかった人も、全体研修会の前後で公開授業を行い、ブロックで見合
って研究協議を行う。(専科はその教科)

・5・6年以外の教員は、年1度、高学年に入って、言語・数理運用科の授業を行う。

・12月の研究公開は、5・6年の言語・数理運用科の授業を公開する。

(3) 人権教育

特別支援教育、福祉教育、平和教育、性教育、国際理解教育は年間指導計画に基づいて実施する。

(4) その他

研究推進委員長(校長先生より指名)、副委員長2名を置く。

「配慮を要する子どもの報告会」を年間3回行う。(5月・10月・3月)

児童の実態報告は、必要に応じて職朝で行い、全職員で意識統一を図る。

学年・学級経営案を作成し、公開する。

(学期ごとに各自学級経営案を振り返り、次の指導に生かすようにする。)

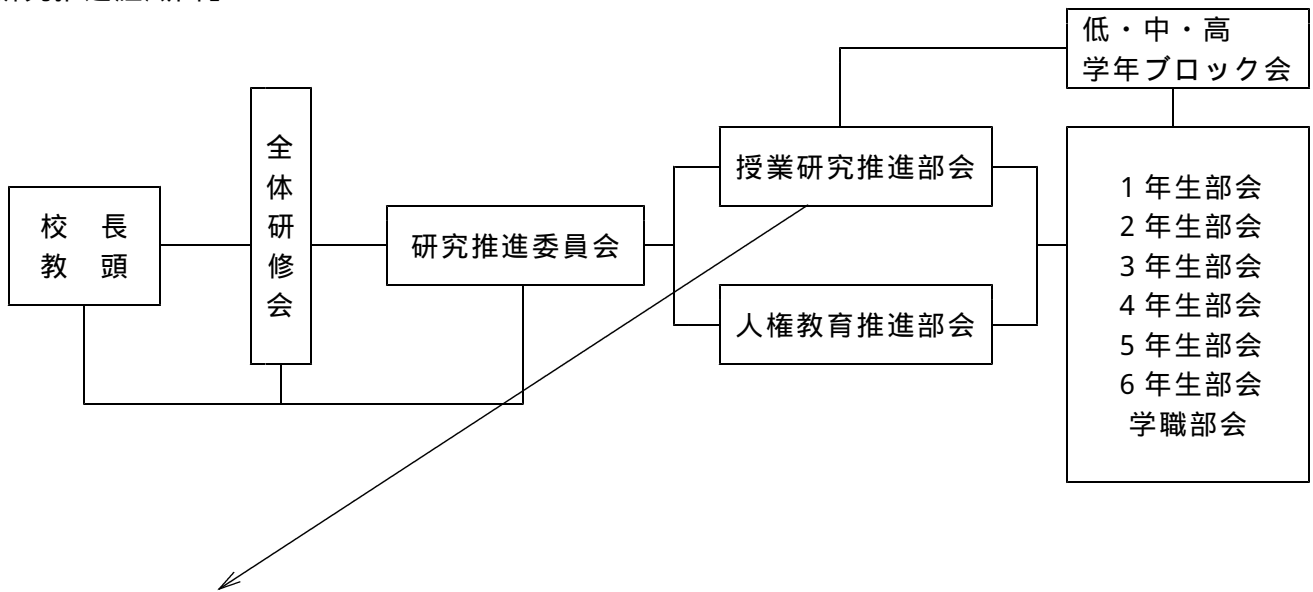
5月初旬提出とし、形式は教務で提示したものを使用する。

学職部は人権教育推進部会に所属する。

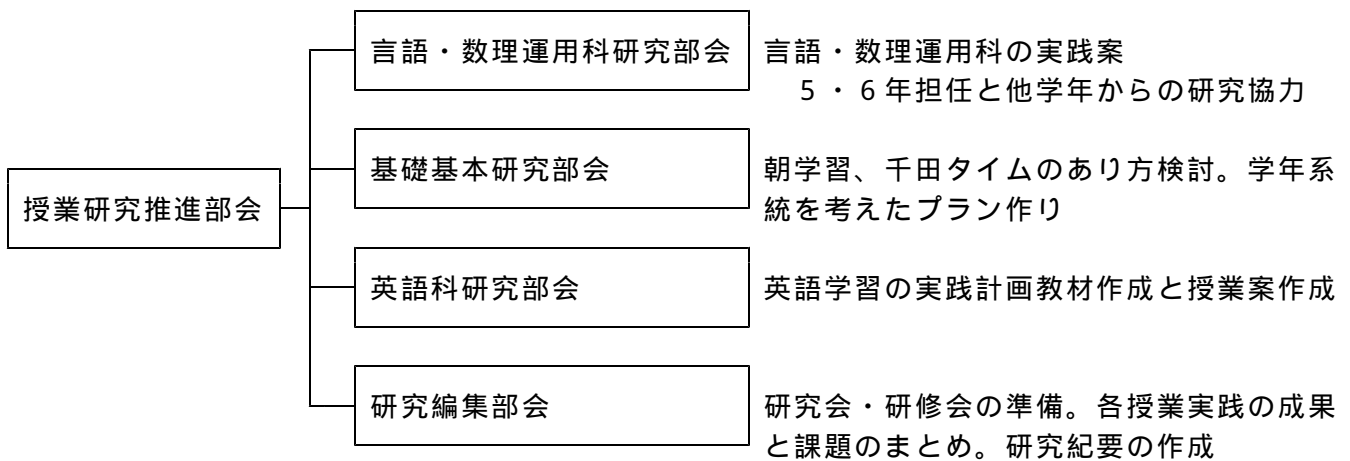
研究のまとめとして、研究紀要を作成する。

5 . 研究組織

【研究推進組織図】



【授業研究推進部会の新しい構成】



研究推進委員会は原則月に1回開き、授業研究推進部会の報告と提案を行う。

研究推進委員長は校長の指導のもと、各部（授業研究推進部会）を統括する。

研究推進委員会のメンバーは、校長、教頭、教務主任、研究推進委員長、授業研究推進部会の各部の代表、人権教育推進部長から構成する。

授業研究推進部会は原則月に1回開く。

授業研究推進部会・人権教育推進部会とも全員参加の組織とする。

人権教育推進部会は原則各学期1回とする。

低・中・高ブロック会は年間計画の中に位置づける。また、必要に応じて各ブロックで独自に日程を設け実施する。

資料1

本校における育てたい力の段階指標(ルーブリック)

問題を発見し、思考、判断する力			かかわりを大切にし、ともに高まる力			学習を振り返り、自らの考えや課題を明らかにする力	
問題発見力	探求力	問題解決力	集団思考力	人間関係力	表現力	自己評価力	学習価値の認識
<p>調べたり、観察したりしたことからパターンや関連性・連続性を見つけることができる。</p> <p>自分の問題を見つけ、活動の見通しがもてる。</p> <p>実際に調査できるような形で調べ問題を考えることができる。</p>	<p>問題に関連した予想を根拠をあげて複数考えることができる。</p> <p>問題となる事象が、どのようなプロセスで生じてきたかを説明し、その説明は一つではないことに気づく。</p>	<p>最初の予想と関連させて発見したことを論じることができる。</p> <p>データや資料全体を検討し、結果を出すことができる。</p>	<p>友達の考えと自分の共通点や相違点から問題解決に向けて考えることができる。</p>	<p>自分や友だちのよさを見つけ、協力して活動できる。</p>	<p>資料を効果的に使いながら自分の考えを相手に分かるように話すことができる。</p> <p>学習したことについてまとめ方を工夫して報告できる。</p>	<p>問題に対する関心の強さ、知りたいこと、結論の意味、願い、自己の変容を振り返ることができる。</p> <p>自己の学習や友達の発表を比較して発表に値する価値ある事項を選択できる。</p> <p>問題に対して何が解決できて、何が未解決かを明確にし、次の適切な目標を設定できる。</p>	<p>学級全体における自己学習の位置付けや貢献した事実を理解できる。</p>
<p>調べたり、観察したりしたことから違いや、同一な点に気づくことができる。</p> <p>自分の問題を見つけることができる。</p> <p>自分の問題をどのように調べたらよいか考えることができる。</p>	<p>問題に関連した予想を複数考えることができる。</p> <p>問題となる事象がどのようなように起こっているのかを説明しようとする。</p>	<p>最初の問題に関連させ、発見したことを論じることができる。</p> <p>パターンや傾向をデータや資料全体と照らし合わせることができる。</p>	<p>友だちと自分の考えを比べ、違いがわかる。</p>	<p>友だちのよさを認め、協力して活動できる。</p>	<p>絵や文字、図、表などをつかいながら相手に話す。</p> <p>学習したことについて図や表にまとめ、報告できる。</p>	<p>問題に対する関心の強さ、知りたいこと、結論の意味、願いなどを振り返ることができる。</p> <p>自己の学習内容から、発表に値する価値ある事項を選択できる。</p> <p>自分の活動をふり返り、次のめあてを考えられる。</p>	<p>学習を全体的に見直し、学習のよい点や改善点を自覚できる。</p>
<p>調べたり、観察したりしたことから細かな点での違いを見つけることができる。</p> <p>調べたことからさまざまな疑問をもつことができる。</p> <p>自分の問題が調べられるかどうかを考えるとすることができる。</p>	<p>問題に関連した予想をすることができる。</p> <p>問題となる事象の特徴を指摘したり、現象に名前をつけたりできる。</p>	<p>最初の問題に関連させ、話をすることができる。</p> <p>結果の中にパターンや傾向を発見できる。</p>	<p>自分の考えを多くの人に伝え、人の話の内容も理解できる。</p>	<p>友だちとなかよく活動できる。</p>	<p>自分の活動について自由に話ができる。</p> <p>学習したことを絵や図にまとめ、報告できる。</p>	<p>問題に対する関心の強さ、知りたいことなどを振り返ることができる。</p> <p>自己の学習内容から、発表する事項を選択できる。</p> <p>自分の活動をふり返り、次の活動を考えることができる。</p>	<p>学習に対する内容的・方法的・情意的価値に気づく。</p>

なぜ浜井市長は、多くの反対がありながら平和大通りの建設を進めたのでしょうか。その理由を考えてワークシートに書きましょう。

【評価基準】

平和大通りの建設に反対する人々がいるにもかかわらず、それでも道路建設を進めた浜井市長の考えについて予想し、説明することができる。

【本校の段階指標と評価基準、パフォーマンス事例】

本校の段階指標	評価基準	児童のパフォーマンス事例
問題に関連した考えを根拠をあげて提示することができる。	平和大通りの建設に反対する人々がいるにもかかわらず、それでも道路建設を進めた浜井市長の考えについて、これまでの学習をもとに予想し、説明することができる。	浜井市長が平和大通りの建設に反対する人々がいるにもかかわらず、それでも道路建設を進めたのは、将来の広島のことを考えたからだと思います。現在の平和大通りは、緑豊かで人々の憩いの場となっています。フラワーフェスティバルなども行われています。また、都市が発展するためには、大きな道路が必要です。車が多くなるのは、昭和40年代ですが、浜井市長は、当時そこまで考えていたのだと思います。
問題に関連した考えを提示することができる。	平和大通りの建設に反対する人々がいるにもかかわらず、それでも道路建設を進めた浜井市長の考えについて、これまでの学習をもとに予想し、説明することができる。	浜井市長は、平和記念都市建設法の内容を生かし、平和都市のシンボルとして平和大通りを造ったのだと思います。ここは、建物疎開をしていたところです。その場所を平和の印として残したかったのだと思います。 今の平和大通りは緑でいっぱいです。だから浜井市長は、75年は草木も生えないと言われていた広島に、緑豊かな道路をつくりたかったのだと思います。
問題に関連した考えを提示することができない。	平和大通りの建設に反対する人々がいるにもかかわらず、それでも道路建設を進めた浜井市長の考えについて、これまでの学習をもとに予想し、説明することができる。	平和大通りのような道路があると便利だからつくったのだと思います。

目標	情報を取り出す力		思考・判断する力			表現する力	
	問題発見力	見通す力	探求力	判断力	集団思考力	表現力	
調べたり、観察したりしたことからパターンや関連性・連続性を見つけることができる。	自分の問題を見つけ、活動の見通しがもてる。	問題に関連した予想を資料や自分の知識と関連づけて、複数、考えることができる	最初の予想と関連させて発見したことを論じることができる。	データや資料全体を検討し、結果を出すことができる。	友達の考えと自分の共通点や相違点から問題解決に向けて考えることができる。	資料を効果的に使いながら自分の考えを相手に分かるように話すことができる。	学習したことの要点についてまとめ方を工夫して報告できる。
調べたり、観察したりしたことから違いや、同一な点に気づくことができる。	自分の問題を見つめることができる。	問題に関連した予想を資料や自分の知識と関連づけて考えることができる	最初の問題に関連させ、発見したことを論じることができる。	パターンや傾向をデータや資料全体と照らし合わせるができる。	友だちと自分の考えを比べ、違いがわかる。	絵や文字、図、表などをつかいながら相手に話す。	学習したことの要点について図や表にまとめ、報告できる。
調べたり、観察したりしたことから細かな点での違いを見つけることができる。	調べたことからさまざまな疑問をもつことができる。	問題に関連した予想を資料や自分の知識と関連づけて考えることができない。	最初の問題に関連させ、話をするができる。	結果の中にパターンや傾向を発見できる。	自分の考えを多くの人に伝え、人の話の内容も理解できる。	自分の活動について自由に話ができる。	学習したことを絵や図にまとめ、報告できる。

上記の表のように育てたい力について大まかな段階を設定します。

の3つのレベルを設定しました。

この表に基づき、本時の目標がどこにあたるのかを考え、評価基準を作成します。(次ページ参照)

その際、評価基準に基づく発言例や記述例を添えておくと授業者の目指すべき授業像が鮮明になります。

ただし、発言例や記述例はあくまでも例であり、これ以外にもたくさんあることを配慮しなければなりません。

資料4 言語・数理運用科のパフォーマンス事例

【第2時】パフォーマンス課題

どうすれば、マイカー乗るまっデーの取り組みに参加する人を増やせるのだろう。

【評価基準】

既習事項や生活経験をもとにマイカー乗るまっデーの取り組みに参加する人を増やすための方策を考えることができる。

【本校の段階指標と評価基準、パフォーマンス事例】

本校の段階指標	評価基準	児童のパフォーマンス事例
問題に関連した考えを複数の視点から提示することができる。	マイカー乗るまっデーの取り組みに参加する人を増やすための方策を複数の視点から考え、提示することができる。	<p>マイカー乗るまっデーについて、わたしはこの前初めて知ったので、みんなも知らないと思います。だから、もっとポスターやちらしを作ってみんなに宣伝すればいいと思います。また、もっとバスや電車の料金をその日だけ安くするとみんな乗ってくれると思います。</p> <p>みんな、地球温暖化で大変なことが起こっていることを知らないのだと思います。どれだけの成果があるのか知らせるためのテレビ番組をつくったらいいと思います。</p>
問題に関連した考えを提示することができる。	マイカー乗るまっデーの取り組みに参加する人を増やすための方策を考え、提示することができる。	<p>みんな満員電車がいやなので、車を使うんだと思います。だから、バスや電車の本数を増やすとマイカー乗るまっデーに参加する人が増えると思います。それから、マックスみたいに座るところを増やせばいいと思います。</p> <p>参加してくれる人にプレゼントをすればいいと思います。</p> <p>公共の乗り物をもっと便利にすればいいと思います。バスの路線を増やしたり、バス停を増やしたりするとマイカー乗るまっデーに参加する人が増えると思います。</p> <p>マイカー乗るまっデーの日を22日だけでなく、もっと増やせばいいと思います。月に一日だけだったらその日に都合が悪かったら参加できないからです。</p>
問題に関連した考えを提示することができない。	マイカー乗るまっデーの取り組みに参加する人を増やすための方策を提示することができない。	<p>方策について記述できない。</p> <p>みんなが参加すればいい。</p> <p>みんなががんばればいい。</p>